

# かそり十話

## 第1部（前近代）

千葉市立加曽利中学校

安藤一郎

### はじめに

かそりの自然は美しい。教育の環境として申し分ないと私は思っている。本校の校歌も美しい。名曲だと思う。その一節に“……文化の遺跡なつかしき……”というのがある。貝塚、都川のほとり栄福寺……まことに豊かな自然の恵みを受けつつ、われわれの祖先は暮らし、素朴な土器芸術も作り出したことでしょう。

7～8午前の話だが、2階建校舎を作るべく、基礎工事をしたら、土器や石器が多数発見され、3,000年ほど前もこの校地が先祖のホームグランドであったことを知らされました。そういうえば、グランドの所々に快晴続きでも乾くことのない2m四方位の模様が規律的にいくつかできるのはなぜでしょうか？ある時代の遺跡かも知れません。ソイルマークらしいのが不思議の一つです。

日本史の学習をすすめる中で、身近な郷土の歴史の資料等を利用して学ぶことは極めて、重要です。たとえば、日本全体の時代の移りわりの中で郷土の果した役割を考えたり、日本の歴史の中でわたしたもの郷土はどのような特色を持っていたかについて考えたりすることによって、日本史の学習をより具体的に理解することができます。

柳田国男氏（民俗学者）は「無学文盲の日々営々として労働にいそしんでいた郷土の先人の生活史こそ郷土研究の主題であるべきだ」と唱え、「自分たちの先祖の歴史にこそ最大の関心を寄せこよ」と、繰り返し言わされました。この「かそり十話」は、加曽利中の学区に生起した歴史の中から、明治以前を第1部として、10の話題を選び、各時代をトピック的に、隨筆風に書いたものです。全部が信頼できる史料の裏づけをもっているとは限りません。古老に聞いた話もあり、いろいろ疑義もある思うが、私は問題提起のつもりで綴りました。郷土研究への関心が呼び起せたらうれしく思います。どこから読みだしても、むずかしい内容になったらとばしても結構です。一読してみてください。

### ご父兄の方々へ

浅学のうえ、拙文を顧みず冷汗三斗の思いで中学生向き”よみ本”をつくりました。不備が多かろうと思います。お気付きの点ご叱正願えれば望外の喜びです。この小冊子をまとめるにあたり和田茂右衛門氏（郷土史家）、川村優氏（県史編纂室）、武田宗久氏（千葉高）の諸先生の貴重なご意見をうかがい、乏しい学区の資料を補い得たことは感謝にたえません。厚く御礼申し上げます。

昭和45年3月

## もくじ

第1話	千葉市で最も古い遺跡は、都小の校庭 向の台貝塚について	4
第2話	マンモス団地で住んだ 加曽利貝塚人 数千年も続いた日本一の遺跡	8
第3話	千葉市で最初の水田は 都川のほとり 弥生式時代の数少ない遺跡	12
第4話	古墳時代「かそり」を支配した勢力は朝鮮渡来の人? 「カソリ」の語源晋百済にもとめる村岡説	14
第5話	万葉集に「おおだ」(太田町)の防人の歌がのっている 千葉市ではただ1つの歌	18
第6話	貝塚町は猪鼻城のなわばりのうち 車坂の曾場鷹大明神について	22
第7話	坂尾(大宮町)の偉人 坂尾五郎治 栄福寺の縁起をたずねて	25
第8話	「下に、下に」権現様(徳川家康)のお通り 御成街道を通り東金御殿へ	27
第9話	苦しかった農民の暮らし 佐倉騒動のころの「かそり」のむらびと	29
第10話	加曽利に「市原」 市原に「かそり」 地名と姓の面白いとりあわせ	35

## 表紙の説明 須和田式土器

坂月町の新田山遺跡から出土した弥生式前期のもので、市内で水田耕作の最古と見られる遺品。  
第3話参照